



2025 年 8 月 発行
 社会福祉法人 ありのまま舎
 (障害者自立企画)
 発行責任者 白 江 浩
 編集 佐 藤 環
 〒982-8544
 仙台市太白区西多賀 4 丁目 19-1
 TEL 022-(243) 1300
<http://www.arinomama.or.jp/>
 E-mail houjin-arinomama@globe.ocn.ne.jp

1976 年 2 月 25 日 第 3 種郵便物認可 (毎週 4 回・火・木・金曜日発行)
 2025 年 8 月 8 日 発行 SSKO 通巻 11975 号

第 25 回ありのまま自立大賞授賞式 — 27 年の歴史に幕 —



今回で一旦休止が決まったありのまま自立大賞授賞式が 7 月 23 日(水) 14 時より仙台市中小企業活性化センターにて開催されました。昨年 12 月より全国からの推薦をスタートし、約半年かけて選考を進めて参りました。

最終選考の結果、1 名 1 団体の受賞者が選ばれました。

【ありのまま自立特別賞】

石川 准様 (静岡県)

【ありのまま自立支援大賞 (団体)】

重度障害者・生涯学習ネットワーク様 (東京都小平市)

お二方とも遠方よりご出席いただき、受賞を共にお祝いすることができました。(詳細のご活動については次のページをご覧ください。)

今回自立大賞は全国から 2 名 2 団体の推薦がありました。4 月に東京にて第一次選考委員会が行われ、2 名 1 団体の面接調査を行いました。今回は対面での面接調査を行い、直接ご本人



(前列左) 重度障害者・生涯学習ネットワーク様 (2 名)・石川准様
 (後列左) 白江委員・大熊委員・前島委員

より活動の様子や思いを聞くことができました。その後、最終選考が行われ、6 月下旬に受賞者が決定しました。今回自立大賞が最終回を迎えるにあたり、選考の過程で改めて本賞の趣旨を見直し、協議を行った結果、これまでの区切りとして過去の自立大賞を超えた「特別賞」に値するとの結論に至り受賞が決定しました。

薫る風

七月二十三日「第 25 回ありのまま自立大賞」授賞式を無事終えた。委員長 瑤子女王殿下はご都合で欠席となったが、最後に相応しい方々に賞をお贈りできた。自立大賞は、当時当舎の総裁だった故寛仁親王殿下に故山田富也専務理事が提案したことからは始まった。目的は二つ。第一に「自立」の概念を変えたい。寝たきりでも、多くの人々の支援を受けながら自己実現を果たそうと努力されている方は、少なくない。経済的・身体的自立を意味することが多かった時代、様々な「自立↓自己実現」の形があることを伝えたい。二つ目は「立つて居る者は皇族でも使え(寛仁親王殿下)」は、その精神を端的に表現されていて、当舎の行動指針に明記されている。現在、日本では「障害」の定義や捉え方が、これまでの「医学モデル」から「社会モデル」や「人権モデル」に変わりつつある。正しく 27 年前に議論したことがあった。今回受賞された石川准先生は、そうした考え方を明確にした「障害者権利条約」を日本が締結、批准するために長年努力され、その考え方が、定義を基本にした日本の法改正にも尽力された。自立大賞の二つの目的は制度や助成がなくても、必要な支援を自分たちで切り開くために地道に努力されている人々を見出し、広く多くの方々にご紹介し、人々の励みとして頂くことだった。授賞されたもう一組の「重度障害者・生涯学習ネットワーク」は学校卒業後の医的ケアや重度(多くの支援が必要)の障害のある方の(制度のない)生涯学習の場を保障したいと手弁当で活動している様々なグループのネットワークだ。ありのまま舎三兄弟の母外与子さんの「余命いくばくもないからこそ、教育が必要。教育は生きる希望だから」の思いにも重なる。自立大賞の二つの思いが重なったと思う。(白江浩)

7 月 23 日 (水) の授賞式には約 70 名の方々にご出席いただきました。選考委員長の瑤子女王殿下におかれましてはご公務のため残念ながら御欠席となりました。

◆ はじめに社会福祉法人ありのまま舎理事長の白江浩よりご挨拶がありました。自立大賞が創設され、今回一旦休止となった経緯について説明がありました。

「自立大賞は 1997 年頃に亡くなった創設者山田富也が長年温めていた思いを寛仁親王殿下と私に伝え、それをどう形にしていくなかというところから始まりました。

大きく二つの柱がありました。一つは自立の概念を変え、自立とは支援者や助けをどれだけ求められ、得られるかということ。助けを求めることは決して恥ずかしいことではなく大事であること。20 数年前はなかなかご理解いただくことは難しかった

ですが、その思いを何とかして伝えていこうと一つの柱がありました。

二つ目は、人知れず地道に自ら道を切り開いている方を掘り起こして、多くの方にお伝えしていくこと。制度やお金がないからできないのではなく、明日死ぬか分からない自分たちにとっては時間が全然ないという思いでありのまま舎は活動してきました。それは我々だけじゃなくて、全国にたくさんいるはずである。それがどんどん広がっていく社会にしていきたいという思いで二つ目の柱が決まりました。

時代が変わり、共生社会が普通に語られるようになり、私たちの思いが少しは伝わり一つの役割が終わったのかなと思います。交流サイト (SNS) の普及で自ら発信する機会が増え、我々が当初考えていたことが、ある程度普通にできるようになってきました。一旦ここで自立大賞を締めくくり、総括する結論に至りました。しかし、すべてを終えるわけではありません。時代にあつた新しい取り組みを考えていきたいと思っています。

今日は忙しい中、お集りいただきましてことを心より感謝



社会福祉法人ありのまま舎
理事長 白江浩

謝申し上げます。本当にありがとうございました。ご挨拶申し上げます。

ありのまま自立特別賞 石川 准様



石川様は 16 歳の時に網膜

剥離のため失明されました。その後、筑波大学附属視覚特別支援学校高等部を経て、東京大学に点字受験で初めて合格しました。その後、ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校大学院に留学。帰国後は東京大学大学院社会学研究科で研究を続けられ、静岡県立大学名誉教授、内閣府障害者政策委員会委員長、国連障害者権利委員会副委員長など歴任されました。

障害を社会・文化の視点から研究する「障害学」を日本に広め、障壁を取り除くのは社会の責務とする「社会モデル」の考え方を日本に広く紹介しました。日本の障害者政

策に重要な影響を与え、現在も日本を代表する存在として活躍しておられます。

石川准様ご挨拶

「振り返ると研究、開発制作を主として仕事をしてきました。特に研究では障害学の国内への紹介や障害学会の設立などをやってきました。痛みや障壁や困難や問題などに対して解決策を提案すること自体がとても面白かったです。

今の私の関心は、AI を使った新技術の更なる発展に期待をしつつ、人工知能が遅かれ早かれ実現する見通しを感じます。そうした時に私たち人間、また社会はどのように向き合っていくのかに関心を持っています。引き続き元気にやっていこうと思いますので、よろしく願います。本日はありがとうございます。とご挨拶いただきました。



表彰を受ける石川准様

ありのまま自立支援大賞 重度障害者・生涯学習ネットワーク様



会長の飯野順子様

重度障害者・生涯学習ネットワーク様は 2017 年 12 月に設立され、現在 18 団体が加盟されています。学校を卒業した医療的ケアを必要とする方の学び続けたい希望に耳を傾け、訪問という形で学びの機会を提供してこられました。元教職員の方を中心として様々な分野や活動内容を考え、工夫と発想をこらし、カレッジ生のニーズに沿った教育の場を提供しておられます。本人の意思と尊厳を尊重することを最も大切な基盤とし、一人ひとりの障害特性、発達段階、興味・関心、さらには体調の変化にまで細やかに寄り添い、その人にあつた学習内容と方法を検討するオーダーメイドの支援を行っていただいています。これまで各地で活動していた団体を組織化することでお互いがつながり、共に

支え合い、力を合わせて活動をさらに広げておられます。

◆ 会長 飯野順子様へ挨拶

「今日はこんなに素晴らしい大賞をいただき、とても嬉しく思っています。この賞をいただいたのは、先ほどビデオで見ていただいたカレッジ生の頑張りによつてだと思っています。」

先ほどから何回も言われていますように、私たちは「生きることは学ぶこと、学ぶことは生きる喜び」これをモットーに生きてきました。一人一人が命と向き合い、命を輝かせ、懸命に学んでいます。この賞をいただいたのも、その根底にはカレッジ生の頑張りがあつてこそだと思います。彼らには人を動かす力があります。そして私たちも一緒に頑張って頑張ることができると思っています。

私は昭和40年頃、特別進学校の教員やつていました。その時に二人の筋ジストロフィーの兄弟をお母さんがリアカーで連れてきた方がいました。その方の姿を見ている中で、私は山田富也さんのことを知ることができました。時空を経てここでお会いできたような気がしています。本当に今日は私たちのような団体をよく見つけてくださって本当に嬉しい限りです。今日は本当にありがとうございます。

た。」とご挨拶いただきました。



副賞を授与する副会長の成田裕子様

1999年に創設された「ありのまま自立大賞」は第25回を持って一旦休止とさせていただきます。たとえ寝たきりでも自立していると言える人がいると思う。そんな人たちにスポットをあててみたい。難病や障害を持った方々の自立の姿を顕彰することを願ひ、これまで41名9団体が受賞しました。

自立大賞は一旦休止となりますが、時代に即した新たな取り組みを進めて参ります。今後とも活動を見守りいただき、より一層のご支援・協力をお願い申し上げます。

自立大賞を長年見守り、支えていただき本当にありがとうございます。



仙台エリア

【仙台市基幹相談支援センター】

今年度が始まり、早いもので3か月が過ぎました。仙台市障害者基幹相談支援センターでは新年度に入り人員体制が変わったこともあり、仙台市内の障害者相談支援事業所を1か所ずつご挨拶回りをさせていただいております。

市内には82か所の相談支援事業所があり、それぞれに特徴があります。相談支援専門員1名体制で対応している事業所や障害の種別に特化して対応している事業所等様々でした。委託相談支援事業所のみなさまは、ご家族を含めた支援が必要な世帯へのかかわりや障害者自立支援協議会への参画など、とても忙しく業務を行っていました。指定特定相談支援事業所のみなさまは、計画相談支援の更新やモニタリングなど、日々忙しく地域を走り回っています。

今後は、事業所回りの中でお聴きしてきたことを活かし、市内の相談支援専門員のみなさまに充実した研修の機会の提供や支援者支援を行えるよう、自身のスキルアップを図り、仙台市内の相談支援専門との関係をより深いものにできるよう取り組みでまいりたいと思います。

(佐々木晃)

【サポートケア仙台ありのまま舎（難病・障害者相談支援センター）】

2020年突如としてコロナウイルスが流行しました。日常生活に制限ができ、生活が一変してしまいました。

あれから5年が経過しました。現在ではコロナウイルスは感染症の位置付けが5類感染症へとなりました。制限を受けてできなかったことをして楽しむことが出来つつあります。そして何より、今まで会えなかったご家族や友人等に直接会うことができ、人との繋がりを再び持つことができるようになりました。そのことを笑顔で教えて下さり、とても嬉しく思っています。

但し、この猛暑の中でも感染症がなくなつてはいけません。最近通院した際医師から、また感染者が増えているとの話をお聞きしました。ご自宅、グループホーム、施設等でお過ごしになっている方も、感染した場合の当事者の方はもちろんのこと、ご家族や支援している方々も負担やリスクの大きさは言うまでもありません。

「喉元過ぎれば熱さを忘れる」とならないように、自己管理しつつ、携わっている方々への感染症注意喚起をさせて頂き、かつて皆さんが「当たり前」と思っていた生活を送ることができるよう努めていきたいです。

(相澤誠二)

【ホームケア仙台ありのまま舎リビングセンター】

7月21日(月) 21時20分、突然入居者棟が停電になりました。一部屋おきに停電になり初めての現象で、入居者4名の居室に影響が出ました。電気工事の方に連絡し現象をお伝えしたところ、主電源のメーターに電気がきていないことが分かりました。電柱から電線を伝って電気がきていないことであり、電柱を管轄する業者に電話をして修理に駆け付けてくれました。真っ暗な中、電柱にのぼり確認したところ、ヒューズが切れていることが分かりました。昔の古いヒューズで経年劣化が原因でした。23時20分に電気が復旧。入居者の方とやっと安心しました。

自立ホームでは災害時のポータブル電源、発電機は準備していますが、今回のように停電が大規模になると限られた部分でしか対応できません。今回特に感じたのは夜間でも暑さが厳しく、エアコンなしでは生命に関わる熱中症の危険がありました。人工呼吸器や医療的ケアを必要とする入居者の方はおられませんが、気候変動によつて停電は大きなリスクであり、停電時の電源確保を自立ホームでも考えていかなければと思います。

(佐藤環)

茂庭台エリア

【チャイルドケア仙台ありのま
ま舎保育園】

夏も本番となり、朝から太陽が燦々と照りつける日々が続いています。今年は梅雨という梅雨をあまり感じられないまま、早い時期から気温が高い日が続いていましたね。

子どもたちは暑さに体が慣れず少し疲れ気味ですね。子どもはなんとなく具合が悪いや痛いを言葉ではまだ伝えられないので、普段通り過ごしています。実は元氣そうに見えて疲れていたり、体調不良になっていたりします。

最近、ごはんを食べなくなつた、水分ばかり欲しがると等は体調不良のサインです。また、睡眠時間はきちんと取れているはずなのに眠そう、遊びに集中できない等も。7月から好きな水遊びを楽しんでいます。日中に眠くなり長い時間遊びを楽しめないことが増えていきます。水分補給をし、休息を取りながら過ごしています。疲れが溜まってきているのかなと感じています。家族でお出かけも増える頃かと思えます。食べやすいスープ等で胃腸から温め、体を整えて夏ならではの遊びを

沢山楽しんでいきましょうね。
(春日麻里)



暑い日の水遊びは楽しくて気持ちがいいですね！



【難病ホスピスケア太白ありのまま舎】

【アクティヴィティ】

アクティヴィティの日中活動は、毎週火・土曜日の午前・午後行っています。また外部利用者は一日2〜3名の受け入れも行っています。引き続き、コロナ等の感染予防の為、ご本人、ご家族を含めた体調チェックのご協力も頂いております。

今年2月からミヤンマーから2名、4月にはラオスから2名のスタッフも加わり、日本語の勉強も兼ねながら日中活動支援を行っています。特にクイズでは、先輩スタッフからのサポートを受けながら読み方や発音等を確認しながら進めています。また、ジェスチャーゲームでもどのような動作や言葉だと参加者に伝わるかアドヴァイスを活かしながら、各々で工夫しながら進めています。その中で分からない単語や日本での習慣などその都度伝えている所です。不慣れなことも多い中で、教わったことを生かし、それを動きで表しています。最近では、参加された入居者や外部利用者の輪の中にすっかり馴染んでいて、頼もしい存在にもなりました。今後も、新しく迎え入れたスタッフと力を合わせて、より充実した支援になれるよう、一同努めてまいります。

(榎本勇太)

名取エリア

【サポートケア名取ありのまま舎
(難病・障害者相談支援センター)】

今月は20代の知的障害のあるOさんにインタビューしました。Oさんは就労継続支援B型で軽作業や配達の仕事に取り組まれています。

①平日の1日の流れ

朝6時50分に起きます。9時に宮城交通バスに乗り、(集合場所となっているコンビニまで行き、)通所先の送迎車で事業所に向かいます。仕事は3時までです。月3回くらいのペースで通所後にヘルパーさんと近隣を散歩しながらコンビニで買い物をしています。グミや飲み物を買います。

②好きなことや推しグッズ

ラジオで相撲中継を聴くことが好きです。もうすぐ名古屋場所が始まるので楽しみです。(※7月上旬にインタビュー)アニメや声優さんも好きです。家族と一緒に謎解きやスタンブラリーを楽しむこともあります。

③これからの目標について

お仕事を頑張りたいことと、家族旅行に行きたいです。

Oさんには好きなことがたくさんあります。今後も好きなことを楽しみながら日々の生活を送れるようサポートしていきたいです。

(澤田石裕子)

在宅介護を応援します!!

ケーアイ調剤薬局

〒982-0031 仙台市太白区泉崎1丁目34-16

Tel・Fax 022-743-3161

亘理エリア

【ケア】

梅雨も明け、いよいよ本格的な夏の到来を感じる季節となりました。亘理ありのまま舎も7回目の夏を迎えています。今回は亘理ありのまま舎の3ユニットのうち、唯一、2階が生活の場となる「四方の風」ユニットの紹介をしたいと思います。四方の風は比較的自由な自立をされている方が入居されているユニットです。お一人おひとりの生活リズムを大切にしながらも食事の時間だけはデイルームに皆様が集い賑やかな場となっています。デイルームの一角に設置してある掲示板には、毎月の訪問内容や訪問歯科のお知らせなどを入居者の方に向けて掲示しています。また、自立や町のフリーペーパーなどを置き入居者の方に自由に持って行ってもらえるようなスタイルにしています。何気ない日常に新たな発見や小さな幸せを見つけるきっかけになったら良いなと思っています。



四方の風（2階）の掲示板。町内のフリーペーパーなど情報を掲載！

出来るよう心掛けています。今後より一層、入居者の皆様が心穏やかに笑顔で過ごせるような環境作りに力を入れていきたいと思っています。（天内美希）

【サポートケア亘理ありのまま舎基幹相談支援センター】

7月18日（金）、障害のある方とそのご家族を対象とした研修会、「亘理町のまもりくぶ支援を知ろう！学ぼう！」を開催しました。

研修会では亘理町社会福祉協議会、亘理町長寿介護課から講師をお招きし、「まもりくぶ（日常生活自立支援事業）の支援」「亘理町成年後見支援センター」について、それぞれ講話をいただきました。金銭管理や書類の管理などの支援を受けながら地域で生活されている事例や、相談窓口についての説明がありました。

参加された方から、「それぞれの困りごとの内容によって、相談窓口を自分たちで判断して出向く必要があるという点が難しい」とのご意見を受け、講師からは「身近な相談者に困りごとを話してもらうことでその支援者から適切な機関へつなぐ、連携して支援できる」と説明いただきました。また、アンケートでは「支援について知ることができてよかった」との感想が大半でした。

今後も町民が安心して地域で暮らし続けるために必要な支援について、研修会の開催や情報発信をしていきたいと思っています。（馬場美和）

【サポートケア県南ありのまま舎（難病・障害者相談支援センター）】

支援学校小学部に入学し4か月が経った利用児童A君。入学式当日はA君が発熱により欠席。その後も、毎朝ご家族があの手の手でA君を布団から起こし学校へ向かうも、ご家族の車から降りられずに引き返し帰宅する日もあった4月でした。その後少しずつ学校の中に入れるようになり、お昼まで学校にいられるようになり、体操着への着替えもできるようになった6月7月からは給食を食べることに挑戦してみることに。

ご家族からは、『今では朝は自分から起きてくるようになった。着替えもスムーズにできるようになった。ご飯も食べて「学校に行く！」と自分から言うようになった。ポーズを取りながら「ラジオ体操」のつもりで体を動かしていた。』などの近況を伺い、この数ヶ月のA君の変化と成長に只々嬉しい気持ちとA君の逞しさとご家族のこれまでの毎日の頑張りを感じ動かしられました。

日々頑張るA君と、緩やかな成長に向き合いながら日々葛藤し療育に向き合っているご家族の力を信じて、伴走者としてこれからもサポートして参りたいと思います。（根元香奈子）

業 務 内 容

社会保険や労働保険手続・助成金申請代理・会社設立・各種許認可申請・労働や経営相談 他

お気軽にご相談ください。

社会保険労務士・行政書士 須田事務所

〒981-0916 仙台市青葉区青葉町16-1・2階 TEL：022-344-8620 FAX：022-344-8621

スクラップ。

2025(令和7)7月24日(木) 河北新報朝刊掲載

北 条 幸良 2025年(令和7年)7月24日(木曜日) 社会 16版 (24)



賞状を受け取る石川さん（中央）

障害者に光 27年

自立する障害者に光を当てる「ありのまま自立大賞」が23日、27年の歴史に幕を下ろした。仙台市太白区の社会福祉法人ありのまま舎が優れた活動を発掘しようと1999年に創設。交流サイト(SNS)の普及や障害者が自ら発信する機会が増え、役割を終えたと判断した。今後は形を変えた顕彰の在り方を検討する。

静岡・石川さんに特別賞

最後の授賞式が同日、仙 受けた。

石川さんは16歳の時、台北市青葉区の市中小企業活性化センターであつた。静岡県立大名菅教授の石川准さん(68)静岡市が、大賞終了を記念して特別賞を

点から研究する「障害字」を日本に広め、障害者差別解消法の制定などに貢献した。国連障害者権利委員会では日本人初の委員に選ばれ、視覚障害者向けの支援機器も多数開発した。

石川さんは「痛みや障壁を乗り越えようとする行為自体が面白かった。これからも自分ができることをしていきたい」とあいさつした。人工知能（AI）を活用した支援技術開発に意欲を示す。

自立支援大賞は、医療的
ケアが必要な人の訪問学習

ありのまま自立大賞 歴史に幕

支援に取り組む「重度障害者・生涯学習ネットワーク」(東京都小平市)に贈られた。

自立大賞は、ありのまま舎創設者で筋シストロフウィー患者の故山田寛也氏と総裁を務めた故三宮寛仁さまが始めた。寛仁さまは設立発表の記者会見で「社会の中で立派に自立している障害者を紹介しようと賞を創設した」と述べている。

自立には、自己実現を果たしたり人間的魅力で周囲を巻き込んだり、多様な形があるという理念を掲げてきた。新型コロナ禍の影響を受けた2020、21年を除き毎年開催。表彰者は今回で賞10人を含む50の個人と団体となった。

ありのままの白川浩理
理事長は「共生社会が普通に
語られるようになり、私た
ちの思いが少しは伝わった
のではないかと。一度立ち止
まってみれば、役割を見直
し、時代に合った新たな
取り組みを考えたい」と話
した。自立する障害者を紹
介する活動は、賞に限らず
何らかの形で27年度の復活
を目指す。（高木大毅）

紹介活動は継続方針「共生社会 思い伝わった」

支援に取り組み「重度障害者・生涯学習ネットワーク」(東京都小平市)に贈られた。

自立大賞は、ありのまま舎創設者で筋ジストロフィー患者の故山田富也氏と総裁を務めた故三笠宮寛仁さまが始めた。寛仁さまは設立発表の記者会見で「社会の中で立派に自立している障害者を紹介しよう」と賞を創設した」と述べている。

自立には、自己実現を果たしたり人間的魅力で周囲を巻き込んだり、多様な形があるという理念を掲げてきた。新型コロナ禍の影響を受けた2020、21年を除き毎年開催。表彰者は今回で賞10人を含む50の個人と団体となった。

ありのまま舎の白江浩理事長は「共生社会が普通に語られるようになり、私たちが思いが少しは伝わったのではないかと。一度立ち止まってわれわれの役割を見直し、時代に合った新たな取り組みを考えたい」と話した。自立する障害者を紹介する活動は、賞に限らず何らかの形で27年度の復活を目指す。(高木大毅)

「支援頂きありがとうございました（敬称略）」

【書損じはがき等】

$$\frac{25}{6} \div \frac{27}{7} = \frac{25}{6} \times \frac{7}{27} = \frac{175}{162}$$

【ハザー提供】

$$\begin{array}{r} 25 \\ 6 \\ \hline 29 \\ \text{\textcircled{S}} \\ 7 \\ \hline 30 \end{array}$$

【バザー開催日のご案内】

《2025年9月》

2日(火) ヨークベニマル鈎取店

4日(木) ヨークマールシェ大和町店

9日(火) ヨークベニマル南口成店

11日(木) 鶴ヶ谷生鮮いちば

16日(火) ヤマザワ茂庭店

25日(木) 鶴ヶ谷生鮮いちば

27日(土) ありのままショッパセール

（仙台ありのまま舎）

30日(火) 袋原(向日葵ライフ)

サポートセンター)

ご協力ありがとうございました
(敬称略)

【本部】

◆会報發送のための帶封の糊付けを、仙台西高等学校JRC有志・東北学院榴ヶ岡高等学校有志・個人の皆様にお手伝いいただきました。

◆会報の折り込みは、日本基督
教団東北教区婦人会、仙台青葉
荘教会と仙台広瀬河畔教会の皆
様に感染対策をとりながらお手
伝いいただきました。また、自
立ホーム入居者有志の皆様にも、
体調をみながらお手伝いいただ
いています。

◆バザー会では、各会場でコロナ感染症予防に気を付けながらお手伝いいただいています。シヨップセールの会場でも、開始準備や片付け等のお手伝いいただきました。

【太白ありのまま舎】

宮城県車いすダンス協会様や
茂庭台ボランティアグループの
皆様などに協力いただいている
活動については、基本的な感染
対策を講じながら、活動の制限
緩和をしていきたいと考えてお
ります。

会報づくりを共に支えてくださり、心より感謝申し上げます。皆さまの笑顔と温かなお心に、いつも元氣と励ましをいただいております。(遠藤寿子)